



fure-fure





学部長 中野 綾美

看護学部では次の教育理念、5つの教育目的に基づき、学生のみなさんの“将来の看護を創造する力”を培っていきます。

仲間と共に全力で学び、楽しみ、悩み、チャレンジできるよう、教員一同、応援していきます。



理念

看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向けて拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を持った人材を養成する。

目的

1. 人々の生き方や価値観を尊重して看護を展開する能力の養成
人間の尊厳、その人らしさを擁護し、常にケアの受け手の立場に立って行動し、人が自らの意思で力を発揮できるケアを提供し、それを倫理的な観点から説明できる能力を養う。
2. 専門的知識・技術、科学的・倫理的判断に基づく看護実践能力の養成
健康問題を解決するために、人間に対する総合的な理解のもとに、看護の専門的知識・技術を駆使して、科学的・倫理的判断のもとに看護を展開することができる能力を養う。
3. 社会のニーズを予測し、多職種と協働して問題を解決する能力の養成
変動する社会にあって、社会のニーズを察知し、看護者として、他の保健医療職者などとの連携を取りながら、健康問題を解決する役割を積極的に担うことのできる能力を養う。
4. 専門職者としての姿勢を培い、地域の健康生活を創造する能力の養成
主体的、積極的に学ぶ姿勢と、看護者としてのアイデンティティを培い、専門職者としての自覚を持って、人々の健康的な生活の向上に貢献することのできる能力を養う。
5. 国際的見地に立って看護学の学際的発展を推進する能力の養成
広い視野に立ち、研究的視点を持って、看護の本質を追究し、将来看護学の体系化に貢献できる能力を養う。

学生プロジェクト 健援隊 3回生 松澤大二郎

私たち健援隊は、学生プロジェクト「立志社中」に採択されたプロジェクトで、看護学部の男子学生8名で活動しており、熱中症の予防方法やケガをしたときの応急処置、心肺蘇生法などの救命処置についての普及活動を行っています。8月のよさこい祭りでは、中央公園周辺部で熱中症の予防方法や応急処置法などをプリントしたうちわを、観客の方々へ1100枚配布し、熱中症についての啓発活動を行いました。また、12月は高知市内で行われたフットサルの大会に参加し、小学生以下の子どもを含めた親子約150名を対象にして、ケガの予防としてのストレッチや遊びを通した準備運動を実施しました。保護者や指導者の方には救命処置法の普及活動として、心肺蘇生法を実際に体験してもらいながら説明をしたのち、救命処置法をトレーニングできるマネキンとDVDをフットサルチームの代表者や参加者に6体寄贈しました。



学生プロジェクト イケあい地域災害学生ボランティアセンター(イケあいVC) 3回生 岡野佑子



イケあいVCは4学部それぞれの強みを活かして活動している団体です。ボランティアセンターとは、ボランティアをしたい人とボランティアを求めている人をつなぐ役割があり、現在、運営方法やスキルを学んでいるところです。東日本大震災から1年半、2年半後に学生ボランティアとして東北に入り、その活動を契機に微力であっても学生である自分たちにもできることがあると実感し、高知でできることは何かと考えながら日々活動しています。立志社中の助成を受け、学校周辺の三里地区や高知県西部の黒潮町でイベントに参画したり、NPOと連携して地域で企画を展開したりする中で、地域との信頼性を築き、住民との関係の基盤をつくっています。今回、今までの活動が認められ、毎日新聞・兵庫県主催『ぼうさい甲子園』で大学生部門大賞を頂きました。今後も地域の方々との関係を大切にし、学生の視点から防災・減災活動を継続して展開していきます。



1回生



後期に入り、1回生は、それぞれが前期の学業への取り組みをふまえて授業に臨んでいます。演習では、教員のデモンストレーションに目を輝かせ、自主練習にも励む姿が見られます。さらに、定期的に学習会を行っているグループもあり、大学生としての学習の進め方が、徐々に身につけてきていると感じます。12月の看護学部クリスマスパーティーでは、2チームに分かれてダンスを披露しました。1チームはクリスマスの心躍る情景を描き出し、もう1チームは爽やかなチアダンスで、看護研究・国家試験勉強に取り組む4回生に向けエールを送りました。このような学校行事を通し、クラスがまとまっていくのと同時に、高知県立大学の学生としての自覚が強まっています。学生同士のつながりを力に、今後さらに専門的になる実習や授業を乗り越えられるよう、クラス全体および学生個々の取り組みを支援していきたいと思ひます。

2回生



今年度の看護学部クリスマスパーティーは「輝～自分の可能性を信じて～」をテーマに12月14日に開催されました。1～4回生がそれぞれに練習をしてきたダンスや歌を披露したり、2回生が手作りしたアルバムを4回生にプレゼントしたりなど、あたたかく楽しい時間を過ごすことができました。クリスマスパーティーでは2回生は、国家試験に挑む4回生への応援と参加者の方々に対してホスト役に努めます。プロジェクトの企画・運営の難しさを経験し、連携することの大切さや社会性を学ぶとともに、当日は各々の担当役割に責任をもち、おもてなしの心でやり遂げることで、2回生全体が絆を深めるよい機会となりました。参加した皆さんからの「楽しかった」という好評をいただき、満足感や達成感も2回生全体の成長につながったようです。

3回生



3回生は10月から2月まで、14～15名のグループで、急性期看護・慢性期看護・小児看護・母性看護・地域看護の6つの領域看護実習に取り組んでいます。地域看護実習では、担当地域を受け持ち、その地域で暮らす住民の皆さんに向けた健康講座を行っています。あるグループは、子育てをしている保護者や子どもたちに向けて、手洗いの大切さについて、劇や歌を交えて楽しく学べる健康講座に取り組みました。患者さんや地域の人々、ご指導いただく皆様からの温かいご支援により、学生がたくましく成長している姿がとても印象的です。

4回生



4回生は、最後の臨床実習である看護実践能力開発実習と在宅看護実習を終えました。写真は在宅看護実習の場面です。看護実践能力開発実習では根拠に基づいた看護ケアを計画・実施することを学び、在宅看護実習では、疾患・障害を抱える人々とその家族の生活や生き様を目の当たりにし“その人らしく生きる”ということ、その生き方に“よりそう看護”を学びました。1年間かけて取り組んだ卒業研究も、収集したデータに向き合い真摯に向き合い、分析した結果をまとめ、全員が無事提出を終えました。いよいよ、4年間の集大成である国家試験に向けてラストスパートです。



■ 教育の工夫 ～国際化にむけた教育の取り組み～

★授業科目「看護と文化」

近年、急激に進むグローバル化社会においては、様々な文化背景を持った人々に適切なケアが出来ることが求められます。本学部では、国際的な視野を持てるような教育を科目や課外活動に取り入れています。例えば1・2年生を対象に「看護と文化」という総合科目があり、文化と価値観の多様化を理解しながら、個人、家族、地域、世界レベルでの看護について学ぶことを目的として授業を行っています。本年度は、日本で起こっている外国人医療の問題や医療が不足している地域での出産事例などのグループワークを中心とした授業の他、本学と国際交流協定を結んでいるインドネシア・ガジャマダ大学のElsi Dwi Hapsari講師による現地の看護活動の紹介の講義や、文化学部で短期留学していたイタリア・ベネチア大学の学生さんたちと国による災害や防災の認識の違いを共有するディスカッションなども行いました。



★国際交流

高知県立大学では、アメリカ、中国、台湾、イタリア、マレーシア、インドネシアの大学と国際交流協定を結び、交換留学(受入、派遣)や学術交流を行っています。アメリカのエルムズ大学の短期研修は、学生同士の交流、異文化体験を行っています。フレンドシップパートナーがつき、研修期間を越えた交流がうまれています。また、希望により専門科目の受講もできます。来学した交換留学生と本学学生とは、池デイと称した交流企画を毎年行っています。ベネチア大学からの留学生向けに行った看護学部の学生による看護体験は大好評でした。全学合同の学生交流会やランチ会、送別会等でも交流ができます。留学生との交流企画はまだまだあり、国際交流の掲示板で随時お知らせしています。



このような経験によって世界中の様々な健康の課題や看護について考えるきっかけになるようです。最初は、海外のことは他人事のように感じていた学生も、だんだんと意見が真剣になっていくのがよくわかります。今後も、国際的な活動を通じて学生の視野と将来の可能性を広げる支援をしていきたいと思ひます。

■ 学生さんからのメッセージ

国際看護や異文化看護は、開発途上国の医療協力だけに適用されるものではありません。文化の違いを考えるわけですから、先進国であれ途上国であれ、看護をするときには当然考慮されるものですし、日本の中でも意識する必要のある看護の考え方なのです。成人看護学や小児看護学は、発達段階のそれぞれの特性を考慮して適用される看護ですが、国際看護学や異文化看護は文化の違いを考慮して適用される看護です。したがって、どの世代のどの看護学にも必要なものです。在宅看護も、まさに患者さん本人の文化圏に入ってそれを大事にしながらケアするわけで、異文化看護が必要になってきます。土佐の偉人ジョン万次郎さんも、異国アメリカの地に行き、柔軟に異文化を受け入れ文化を学んで帰国し、そして、日本で大活躍しました。看護においても、現在はグローバル化なのです！僕も、思うだけで満足するだけではなく実行へ移し、行動していけたらと思ひます。



3回生 藤原良太



私たちは、2月下旬から2週間アメリカのマサチューセッツ州にあるエルムズ大学に短期留学をします。短期留学の目的は、アメリカの同年代の学生と交流をもち、異文化に触れ合い、国際感覚を養うことです。異文化と触れ合うことは、自分たちの見識を深め、物事を様々な視点でとらえる能力を身につけることができ、看護者として将来役に立つと考えました。また、世界共通語である英語は現代には欠くことのできないスキルとして重要であることから短期留学を志望しました。短期留学で本場の英語にふれ、英語力を向上させ、現地で多くの人と接し、食文化や観光地、マナーなど直接肌で感じることで多くのことを学びたいと考えています。

1回生 寺本有希・友永咲季・三谷建雄

[ニュースレターの名前の意味]fure-fure 学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。 fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp